

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>社会の一員として自立できる力を育成する夜間定時制高校 自主的・自立的に行動し、幸福な人生を実現する力を育成するとともに、望ましい勤労観・職業観を持ち、自他を認め社会を生き抜く力を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>(1) 学ぶ意欲や社会生活の基盤となる基本的・基本的な知識及び技能を確実に育成するとともに、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育み、未来を切り拓く力を養う。 (2) 自己有用感、自己効力感、自己肯定感をバランス良く育み、自発的・自主的に社会の中で自分らしく生きることができるとともに、共感的な人間関係を構築する力を育成する。 (3) 「社会人基礎力」と望ましい勤労観・職業観を育成し、予測困難な時代を生き抜く「生きる力」を養う。 (4) よりよく生きるための基盤となる健康な心身と道徳性を育成する。</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>(1) 学び直しを含めた基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得に重点を置いた教育を展開し、基礎学力の定着と内発的な学びの動機付けを促進する。 (2) 課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育むためのICT活用を含めたユニバーサルデザインの視点による授業改善の推進と学習評価の充実を図る。 (3) 学びを深め、実社会での課題解決に資する能力を育成するため、外部機関・専門家等と連携した特別活動を行い、教科横断的・総合的な学習を推進する。 (4) 教育活動全体を通して個々の生徒の的確な実態把握に努め、個別の教育支援・指導を推進するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにより、生徒の個性の伸長を図る。</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>(1) 自立した社会人となるために、主体的・意欲的に学校生活を送る意思がある人を求めます。 (2) 豊かな人生を送るための基盤となる教養を基礎・基本から学びたいと考えている人を求めます。 (3) 昼間の生活と夜間の学校生活の両立に努め、自己成長を図りたい人を求めます。 (4) 自身の言動に責任をもち、他者の意見や価値観を尊重する道徳心を備えている人を求めます。</p>

学校運営計画(4月)			評価 (総合)
学校運営方針	年度重点目標	具体的目標	
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>○保護者との連携をより一層推進し、学習の基盤となる規則正しい生活習慣と自己管理能力を身に付けることができるよう指導と支援の充実を図る。 ○人権教育や道徳教育を推進し、倫理的判断力の養成や人間関係構築能力の向上を図るなど、良き社会人として成長するための基本的な価値観や倫理観を育成する。 ○多様な背景のある生徒一人一人の状況やニーズに合わせた指導を推進するため、今日的な課題をテーマとした職員研修をより一層充実させる。 ○関係機関等との更なる連携を図り、個々の生徒の興味・関心や能力・適性、経験等を踏まえた進路指導とキャリア支援の充実を図る。 ○図書室をはじめとする学習環境や校内環境のより一層の充実を図り、生徒の学習や成長をサポートする態勢の構築に努める。</p>	<p>基礎的・基本的な学力の定着と課題解決能力の育成</p> <p>自己肯定感と社会的自立の促進</p> <p>特別支援教育の充実と包括的学びの実現</p> <p>社会に開かれた学びの場の拡充</p> <p>心身の健康と道徳性の育成</p>	<p>ICTを活用したユニバーサルデザインの授業を推進し、生徒が基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、それを活用して課題を解決する力を育てる。</p> <p>個々の生徒が自分の価値に気づき、社会の中で自立して行動できるよう支援する。ICTを活用した教育や特別支援教育を推進し、一人ひとりの興味や能力に応じたキャリア形成の支援を行う。</p> <p>特別な教育的ニーズを持つ生徒への支援体制を強化し、個別の教育支援計画を基盤とした学びを実施する。全ての生徒が互いに学び合い、多様性を理解するためのインクルージョン教育を推進する。</p> <p>関係機関や専門家と連携し、生徒が社会人として必要とされる幅広い知識や教養を身に付けさせるとともに、社会参画への実践的な態度を育成する。</p> <p>心と体の健康を重視し、健全な生活習慣を育むための教育を展開するとともに、道徳的な思考と行動を促進する教育を展開する。</p>	A

自己評価				学校関係者評価				
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)	結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	学習意欲の喚起と学力保障	「学ぶ喜び」を通じて達成感を味わわせる。 教室の整備に努め、学習に専念できる環境を整える。 授業規律を確立する。	授業がわかる。生徒98% 落ち着いて授業を受けることができている。生徒99%	A A	A	授業時の態度は教師、生徒ともにほぼ全員が規律が保たれていると感じている。次年度は更に学力の定着に向けて方策をたてたい。	A	○生徒の実態に応じた指導の工夫により、学習意欲を高め、基礎学力の定着を支える取組が進められている。
	生徒の実態に即した教育活動の推進	個に応じた対応を行い、復習に重点を置いた授業を展開する。 個別面談の計画化を図る。 生徒、保護者対象のアンケートを実施し、授業改善に努める。	子どもを本校定時に進学させて良かった。保護者93%	A A	A	遅刻、欠席時は保護者から連絡があり、家庭との連携は取れている。次年度は保護者参観を計画したい。	A	○日常的な関わりを大切にしながら基本的な生活習慣の定着を図り、生徒の安心・成長を支える発達支持的な指導が行われている。
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	情報交換会の充実を図る。 個別面談の計画化を図る。 生徒会の活性化に努める。	基本的な生活習慣が確立し、生活態度がよくなっている。保護者90%	A A	A	毎週の情報交換会や、個別面談も効果的に実施できた。次年度は、特に生徒会を中心に学校行事を充実させたい。	A	○日常的な関わりを大切にしながら基本的な生活習慣の定着を図り、生徒の安心・成長を支える発達支持的な指導が行われている。
	問題行動の未然防止	遅刻欠席防止指導を徹底する。 定期的な全校集会を実施する。 規範意識の体系化を図る。	問題行動を防止し、事後対応も的確である。保護者90%	A A	A	定期的な全校集会とその補講で、問題行動を未然に防止し、問題行動の事後指導もできた。次年度は、訓話を工夫して徳育の充実を図りたい。	A	○日常的な関わりを大切にしながら基本的な生活習慣の定着を図り、生徒の安心・成長を支える発達支持的な指導が行われている。
進路指導部	適切な進路選択ができる環境づくり	個人面談等を通して学校や職場での生徒の状況を把握する。 校外の関係機関と連携してキャリア教育を行う。 ハローワークとの連携を強化し求人を開拓する。	進路講演会が進路選択を考える上で役に立った。生徒100%(参加者)	A A	A	ハローワークとの連携の成果もあり、年内の進路決定が大幅に増加した。来年度もさらに外部との連携を充実させたい。	A	○個に応じた進路支援を通して、生徒が自らの将来を前向きに考えられる環境づくりに取り組んでいる。
	自己肯定感の高揚と進路意識の向上	就労体験を通して望ましい勤労観を育成するため、アルバイトを奨励する。 進路講演会や進路別説明会等を通して、早期の目標設定につなげる。 各種検定・資格の取得を奨励するとともに指導を充実する。	進路に対する指導が手厚いと感じる。保護者 94.7%	A A	A	専門学校との連携によって、進路意識の向上が図れた。次年度もさらに充実した講演会を行い、学校全体に進路意識を向上させたい。	A	○個に応じた進路支援を通して、生徒が自らの将来を前向きに考えられる環境づくりに取り組んでいる。
保健部	生徒一人ひとりの健康と安心を支えるための、校内外の支援の強化	生徒の健康状態や生活状況を把握し、必要な支援につなげる。 個別の教育支援計画を基盤とした支援体制を強化する。 校内外の支援機関と連携し、生徒が安心して相談できる体制を整える。	悩みや相談に親身に対応してくれる。保護者80%	A A	A	個別の教育支援計画を作成し、教員間での情報共有ができた。次年度はより早い時期から作成・活用を進めたい。	A	○校内外との連携強化と生徒主体の健康づくりに関し、安心して学校生活を送れる環境整備が進められている。
	生徒が主体的に健康づくりや食育、環境美化に取り組める仕組みの整備	生徒保健委員会の活性化を図る。 給食を「食を通じた学びの場」としての意義をもたせる。 生徒が心身の健康について主体的に学び、考え、行動できる機会を設ける。	命や性に関する講演で「自分のこと」として考えるきっかけになった。生徒90%	A A	A	生徒保健委員会は委員長を中心に活性化が見られた。喫緊の課題である命や性については、次年度も専門的講師による講演会を実施し、継続的な学びにつなげたい。	A	○校内外との連携強化と生徒主体の健康づくりに関し、安心して学校生活を送れる環境整備が進められている。
庶務研修部	教職員の資質・能力向上のための職員研修の実施	生徒の実態、職員の要望、変化する社会に応じた職員研修の充実を図る。 地域の外部講師、本校のスクールカウンセラーによる校内研修を実施する。 校外研修で得た研修内容を職員間で還元し、研鑽を深める。	校内・校外体験活動での満足感や充実感:生徒平均93%	A A	A	職員の人権学習やSCIによる本校の実態に即した研修を実施することができた。今後も個々の生徒の理解のために必要な職員研修をさらに続けていきたい。	A	○研修や人材育成、読書活動などを通して、教職員と学校全体の教育力向上に貢献している。
	人材育成事業の企画、読書活動推進、および儀式的行事の企画、立案	生徒の実態をふまへ、体験活動の企画、立案、円滑な実施を図る。 図書室の環境整備と読書活動の活性化を推進する。 儀式的行事の企画、立案、儀式的スムーズな進行を行う。	定時制図書室の利用生徒:93%。使用目的:休憩・一人時間:41%、読書11%	A A	A	校内・校外とも体験活動による感動や充実感が生徒の心の成長につながったと感じている。図書室の環境改善には生徒の考え、協力のもと整備を進めていきたい。読書時間を確保したい。	A	○研修や人材育成、読書活動などを通して、教職員と学校全体の教育力向上に貢献している。
学校事務	経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。 各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う。 生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。		A A	A	教職員と連携することで、効果的に予算を編成し、執行することができた。また、今年度は新しい制度やシステムへの転換期でもあったが、保護者に対して的確な情報発信ができた。次年度は保護者との連携も密にし、教育現場のニーズに即した効果的な事務処理を行ってきたい。	A	○経営参加の意識をもって事務業務に取り組み、学校運営の円滑化と教育活動の充実にも寄与している。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の安定を基盤に、学力定着や家庭連携を進め、授業改善の共有を通して、生徒の学びを支援し、学力向上を促す。 ・情報交換会や個別面談、全校集会を基盤に、生徒会活動や訓話を活用して、主体性と徳育を重視した学校生活を推進する。 ・外部機関や専門学校との連携を活かし、進路決定の促進や進路意識の向上を図り、講演会や個別の支援を通して全校の進路意識を高める。 ・個別の教育支援計画の早期作成・活用と情報共有を強化するとともに、保健委員会の活動や講演会を通して健康・命・性の学びを深める。 ・職員研修を通して生徒理解を深めるとともに、体験活動や図書環境の整備、読書時間の確保を推進し、生徒の心と学びの成長を支える。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A:適切である
	B:概ね適切である
	C:やや適切でない
	D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	